



ごあいさつ

第29回日本診療放射線技師学術大会 開催にあたり

大会長 小林 一郎

このたび、平成25年(2013年)9月20日(金)～22日(日)の3日間、鳥根県松江市の鳥根県民会館・サンラポーむらくもにて第29回日本診療放射線技師学術大会を開催致します。

大会テーマ「国民・医療者と協働し、質の高い医療を提供しよう」、サブテーマを「神業が魅せる術」としました。国民の医療に対する知識やニーズは高まっており、われわれ診療放射線技師も日々進化していかなければならない時代となってきました。

今年5月、出雲大社におきまして60年ぶりとなる「平成の大遷宮」が執り行われました。遷宮とは、御神体や御神座を本来あったところから移し、社殿を修造し、再び御神体にお帰りいただくことですが、その意味には諸説あり(1)木造建築の建物を維持するため(2)社殿の建築などさまざまな技術を継承していくため(3)神社は清浄であることが必要で、そのために遷宮を行う(神の力がリフレッシュされる)などと言われています。学会も同じような目的ではないでしょうか? 学会開催と偶然にも同じ年に遷宮が行われ、これも何かの“縁”と感じます。学会で知識を吸収した後は、ぜひ出雲大社へご参拝くださいませ。

市民公開講座では、鳥根県出身で活躍されている映画監督 錦織良成氏(RAILWAYS—49歳で電車の運転手になった男の物語—、渾身 KON-SHINなど鳥根県を舞台とした映画が有名)に「拘りの先に奇跡は起こる」、また中村ブレイス社長 中村俊郎氏(人工乳房「ビビファイ」で有名な義肢装具メーカー)に「空想の翼で駆けて～義肢装具作り48年～」と題しご講演賜ります。お二方とも違った分野で活躍されていますが、われわれ診療放射線技師の職務に当たり、未来へ、または振り返る上で何かしら実践できる、人間味あふれるお話が拝聴できると楽しみにしています。

市民公開フォーラムⅠ「離島における診療放射線技師の役割」と題し、普段の仕事の内容や、医師・看護師・他職種との連携(チーム医療)、離島故の問題点などを共通のテーマとし、全国の離島で活躍されている4人の診療放射線技師をシンポジストとしてお迎えし、国民の皆さまへ話題を提供致します。鳥根県にも隠岐の島という、とても風光明媚な離島があります。隠岐の島から本土への病院連携、ヘリコプターでの搬送など、現実的か

つ具体的な内容で話が進んでいくことでしょう。

特別企画として「放射線災害時医療体制の協定」を考えております。

鳥根県は、県庁所在地の松江市に原子力発電所が立地しています。これは全国でも例がありません。県の原子力防災訓練は、平成23年に発生した東日本大震災以前から実施されていましたが、この未曾有の大震災を境に、われわれ診療放射線技師の役割が非常に重要となり、訓練の内容も大幅に変更されました。原発災害が起きた場合、30km圏域にある松江市からの避難問題など課題は山積みですが、鳥根県と日本診療放射線技師会および鳥根県診療放射線技師会は、協力体制を強化し、県民の皆さまに安全・安心を提供します。

一般セッションならびにインターナショナルセッションを合わせ399演題と、多くの皆さまから、想像以上に演題の応募を頂きましたことを感謝申し上げます。特別講演2題、招待講演、モーニングセミナー4企画、リフレッシュセミナー9企画、フレッシュャーズセミナー4企画、教育講演8企画、県民・市民向け4企画、リーディングコーナー、静脈注射(針刺しを除く)講習会、消化器画像検査従事者フォーラムなど、現場ですぐに実用できる濃い内容を計画しました。

さらに今大会の目玉の一つとして、学術大会初の試みとなる学会アプリを採用しました。iOS端末とAndroid端末で利用可能で、インターネットに依存することなく、学会内容の詳細を自由に閲覧できます。また学会本部からのお知らせもリアルタイムに確認でき、ご自分の予定に合わせた管理が可能となっておりますので、ぜひともご活用ください。

大会初日に行う情報交換会は、世界最大級のガーデンハウスを誇る松江フォージェルパークにて開催します。数十万本の花が咲き乱れる会場に、鳥根の海の幸・山の幸をご用意しました。一風変わった場所での交換会です。皆さまの思い出に残る会となるよう、楽しんでいただける企画を考案しています。

最後になりましたが、第29回日本診療放射線技師学術大会は過去の大会を引き継ぎ、新しく発展させ盛りだくさんの内容をご用意しました。交通の便は良くないですが、決して退屈させません。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。